

光ある喜びをあなたに



MIYATA  
EYE  
HOSPITAL

# 2020 年次報告書

---

医療法人明和会

---

宮田眼科病院  
鹿児島宮田眼科

[発行日] 2020年6月27日

[文責] 宮田眼科病院 病診連携委員会

# 光ある 喜びを あなたに

## [ 目 次 ]

ごあいさつ	P. 03~04
各病院概要・病院長プロフィール	P. 05~06
医師紹介・専門外来について	P. 07~08
当院の最新治療・検査	P. 09~12
◆ ORA™ System with VerifEye+™ Technology	
◆ ZEPTO	
◆ カスタム角膜クロスリンクング	
◆ ICL	
◆ NGENUITY 3D ビジュアルシステム	
◆ Femtosecond Laser IntraLase®	
◆ 感染性眼疾患の分子生物学的解析	
当院の特徴	P. 13~14
トピックス	P. 15~16
◆ 第34回 JSCRS 学術総会	
学位論文	P. 17~18
◆ 「プロスタグランジン関連緑内障点眼薬の長期使用患者における 眼表面常在細菌叢の特徴」	
各委員会・各会議の紹介	P. 19~24
講演会・院内勉強会	P. 25~26
研修・実習生の受け入れ	P. 27
治療機器・検査機器	P. 28~30
実績（手術・治験）	P. 31~32
実績（出版・論文）	P. 33~34
実績（院内講演会）	P. 35~36
実績（学会発表）	P. 37
診療について	P. 38
各施設概要・アクセス	P. 39~40



医療法人 明和会  
理事長  
宮田眼科病院  
院長  
宮田 和典

皆様との連携がスムーズに進みますよう、  
今後ともこの努力を継続し、  
更なる充実を図ってゆく所存です。

皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年は、平成から令和へと元号が変わり、新たな気持ちで過ごした一年でした。年が明けて新型コロナウイルス感染症の問題で世界中が影響をうけることになろうとは想像だにしていまませんでした。医療現場でも過酷な診療に取り組み、犠牲者も出ている現状を目の当たりにして、医療関係者としてできることは何だろうと情報収集を心がける日々です。いたずらに振り回されるのではなく、正確な状況判断をすべく努力していく所存です。

昨年の学会活動に関しては、2019年6月にJSCRS（於：京都みやこめっせ）の運営に学会長として携わりました。従来、我々は治療にあたりガイドライン等に従い「evidence based medicine」を行います。この学会では、さらに踏み込んで個々の患者の背景を鑑みてそれに合ったevidenceによる診断・治療を加味するという「patient based medicine」を主テーマとし、多くの先生方が様々な視点で有意義な発表をされました。又、2020年1月の手術学会では「patient based medicine さらなる高みへ」というタイトルで特別講演をさせていただきました。今後も、固定概念に縛られることなく、患者さん自身のデータを解析し、治療成績を上げるという見地を大切にしていきたいと思えます。

院内業務に関しては、昨秋に電子カルテの導入をいたしました。今回は稼働実績のあるメーカーの電子カルテを採用し、HIT法（業務可視化・改善のための分析ツール）を使った業務の把握・改善をしながらメーカー側とスタッフがタッグを組んでの導入でした。現時点では、まだまだ改善の余地があります。しかし使い勝手の悪さに慣れてしまうのではなく、現場の意見を定期的にヒヤリングし、より良いシステムにしているところです。今後は、電子カルテの情報を、「各部門ごとのニーズに合わせて作成したプログラム」に引き継ぎ活用する流れを構築していきます。幹となる電子カルテにこれからどんな枝葉が繁り大きな樹になっていくのか楽しみです。

新型コロナウイルス感染症の早期終息を心から願いつつ、今年度も「光ある喜びをあなたに」を病院理念として、より良い医療の提供に邁進していきたいと思えます。どうぞよろしくご指導・お付き合いの程お願い申し上げます。



鹿児島宮田眼科  
院長  
大谷 伸一郎

平素より、大変お世話になっております。2004年に開院しました鹿児島宮田眼科は、おかげさまで16周年を迎えました。当初は都城本院に通院中の患者様の利便性向上を主な目的としていましたが、その後、患者様のニーズに対応すべく診療施設機能の充実を重ねてまいりました。

今後も地域医療への更なる貢献を目指し、職員一丸となって努力してまいります。これからも皆様のご支援とご指導をお願い致します。



宮田眼科病院  
副院長  
・  
病棟医長  
片岡 康志

長年、当院の網膜・硝子体部門の責任者であった中原副院長が令和2年3月末をもって退職され、その後を私が引き継ぐことになりました。

これまでのパフォーマンスを落とさないよう、一生懸命努力していく所存です。皆様方には、引き続き変わらぬ御協力を御願ひ致します。



宮田眼科病院  
副院長  
子島 良平

この度、副院長を拝命いたしました子島と申します。私は2001年に宮田眼科病院に入局し、以降、多くの先生方に指導頂きながら主に角膜疾患および眼感染症について学ばせて頂きました。眼科医となり早や20年という月日が流れましたが、未だに診断のつかない疾患に出会うこともあります。外来で向かい合う多くの患者様それぞれにとってどのような治療が最適なのか、日々悩みながら診療を行っています。

今のわたくしでは力が及ばない部分もあるかと思いますが、宮田眼科病院の理念でもある「光ある喜びをあなたに」を肝に銘じて今後も研鑽を積んで参りたいと思えます。微力ではありますが地域医療の発展のために力を尽くしていきたいと思えますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



## 医療法人明和会 宮田眼科病院

所在地 〒885-0051 宮崎県都城市蔵原町6-3  
電話 0986-22-1441  
FAX 0986-24-2174

URL <http://www.miyata-med.ne.jp>

院長 宮田 和典 (医療法人明和会 理事長)  
病床数 71床

### 診療科

#### [眼科全般]

#### [専門外来]

白内障、多焦点眼内レンズ、緑内障、  
斜視・弱視、神経眼科、ぶどう膜炎、角膜、  
網膜・硝子体 (網膜剥離・糖尿病網膜症等)、  
屈折矯正、円錐角膜、ドライアイ、  
強度近視、網膜色素変性、  
ロービジョン、小児眼科、形成、黄斑、  
糖尿病、頸動脈、義眼

### 職員数 合計182名(2019年12月現在)

職種	常勤	非常勤	計
医師	10名	21名	31名
薬剤師	2名	—	2名
臨床検査技師	2名	—	2名
正看護師	57名	2名	59名
准看護師	23名	4名	27名
看護助手	1名	1名	2名
視能訓練士	12名	1名	13名
医事会計・予約	15名	6名	21名
事務室	7名	2名	9名
栄養士	3名	—	3名
調理師・給食婦	7名	2名	9名
その他	2名	2名	4名
合計	141名	41名	182名

医療法人明和会 理事長  
宮田眼科病院 院長  
宮田 和典



### [各種団体役職] (2020年1月現在)

- ◆ 日本眼科学会評議員
- ◆ 日本眼科手術学会理事
- ◆ 日本角膜移植学会理事
- ◆ 日本角膜学会理事
- ◆ 日本角膜学会評議員
- ◆ 日本白内障屈折矯正手術学会理事
- ◆ 日本白内障学会評議員
- ◆ 日本眼感染症学会評議員
- ◆ 日本アイバンク協会評議員
- ◆ 宮崎県眼科医会理事
- ◆ 宮崎県アイバンク協会理事

略歴	経歴
1984年 3月	久留米大学医学部医学科卒業
6月	東京大学医学部眼科入局
1986年 1月	東京大学医学部眼科助手
12月	武蔵野赤十字病院眼科医員
1991年 2月	東京大学医学部眼科講師
11月	博士号取得、東京大学医学部
1991年	エキシマレーザーの厚生省治験開始
1994年 9月	カリフォルニア大学サンフランシスコ校留学
1997年 4月	帰国
4月	医療法人明和会宮田眼科病院副院長
1998年 4月	東京大学医学部眼科非常勤講師 (1998 - 2018)
1999年 4月	医療法人明和会宮田眼科病院院長
2000年 4月	宮崎大学 (前宮崎医科大学) 臨床教授 兼任
2008年 4月	医療法人明和会理事長 宮田眼科病院院長
	現在に至る
受賞歴	受賞歴
(2020年 2月現在)	1992年 アメリカ白内障屈折矯正手術学会 (ASCRS) フィルムフェスティバル 2位
	1993年 アメリカ白内障屈折矯正手術学会 (ASCRS) フィルムフェスティバル 2位
	1993年 ヨーロッパ白内障屈折矯正手術学会 (ESCRS) フィルムフェスティバル 1位
	2016年 日本眼科学会 評議員会賞
	ベストドクターズ受賞歴
	2006 - 2019 7期連続受賞
特別講演	特別講演
	2006年 日本視能矯正学会 特別講演
	2014年 日本眼感染症学会総会 特別講演
	2016年 日本眼科学会総会 評議員指名講演
	2018年 JSCRS 学術総会 特別講演
	2019年 日本眼科手術学会 特別講演



## 医療法人明和会 鹿児島宮田眼科

所在地 〒890-0046 鹿児島県鹿児島市西田1-5-1  
鹿児島高見橋ビル1階・2階

電話 099-286-1213  
FAX 099-286-1190

URL <http://www.miyata-med.ne.jp>

院長 大谷 伸一郎

### 診療科

#### [眼科全般]

#### [専門外来]

白内障、緑内障、斜視・弱視、神経眼科、  
ぶどう膜炎、角膜、網膜・硝子体  
(網膜剥離・糖尿病網膜症等)

#### [日帰り手術]

屈折矯正手術、白内障、翼状片、  
緑内障

### 職員数 合計54名(2019年12月現在)

職種	常勤	非常勤	計
医師	2名	13名	15名
正看護師	8名	2名	10名
准看護師	2名	—	2名
視能訓練士	9名	—	9名
医事会計	6名	—	6名
メディカルクラーク	6名	—	6名
その他	6名	—	6名
合計	39名	15名	54名

医療法人明和会  
鹿児島宮田眼科 院長  
大谷 伸一郎



略歴	経歴
1991年 6月	鹿児島大学医学部麻酔蘇生科
1993年	山口大学医学部第二内科
	国立南九州中央病院麻酔科
1995年	鹿児島県立鹿屋病院麻酔科
1996年	鹿児島県立大島病院麻酔科
1998年	医療法人明和会宮田眼科病院
2009年	医療法人明和会鹿児島宮田眼科院長
	現在に至る

## 目指すは最新、最高の医療の提供

当院では専門外来を確立し、各疾病毎のエキスパートである大学の先生方をお迎えして、特別専門外来診察を毎月1回行っております。各先生方にご高診いただくと共に、当院の医師の習熟に努め、患者様に対しては、地方においても最新で最高の医療を提供するべく、日々努力致しております。

専門外来の種類	・・・当院担当医			・・・特別専門外来担当医		
白内障外来	宮田 和典 片岡 康志 森 洋斉	大谷 伸一郎 子島 良平 貝田 智子	神谷 和孝 (北里大学教授) 大鹿 哲郎 (筑波大学教授)			
多焦点眼内レンズ外来	森 洋斉					
緑内障外来	大谷 伸一郎 貝田 智子	加賀谷 文絵 相原 一 (東京大学教授)	白土 城 照 (四谷しらと眼科)			
角膜外来	宮田 和典 加賀谷 文絵	子島 良平 森 洋斉	榛村 重人 (慶応義塾大学准教授) 宮井 尊史 (東京大学講師)			
屈折矯正外来 (エキシマレーザー) (有水晶体内レンズ)	宮田 和典 森 洋斉 子島 良平	神谷 和孝 (北里大学教授)				
円錐角膜外来	子島 良平 森 洋斉	神谷 和孝 (北里大学教授)				
ドライアイ外来	子島 良平 森 洋斉					
ぶどう膜外来	望月 學 岩崎 琢也	中尾 久美子 (鹿児島大学准教授) 田口 千香子 (久留米大学講師) 寺田 裕紀子 (東京都健康長寿医療センター)				
網膜硝子体外来	片岡 康志 森 洋斉	岡本 史樹 (筑波大学病院教授/筑波大学講師)				
強度近視外来	貝田 智子	寺田 裕紀子 (東京都健康長寿医療センター)				
網膜色素変性外来	貝田 智子	池田 康博 (宮崎大学教授)				
ロービジョン外来	齊之平 真弓					
斜視・弱視外来	中村 ヤス子 貝田 智子 花谷 淳子	中馬 秀樹 (宮崎大学病院教授/宮崎大学准教授) 木村 亜紀子 (兵庫医科大学准教授)				
小児眼科外来	中村 ヤス子 貝田 智子 花谷 淳子	中馬 秀樹 (宮崎大学病院教授/宮崎大学准教授)				
神経眼科外来	中村 ヤス子 貝田 智子 花谷 淳子	中馬 秀樹 (宮崎大学病院教授/宮崎大学准教授) 木村 亜紀子 (兵庫医科大学准教授)				
形成外来	大谷 伸一郎 片岡 康志 岩崎 琢也	垣淵 正男 (兵庫医科大学教授) 岡本 史樹 (筑波大学病院教授/筑波大学講師)				
黄斑外来	岩崎 琢也					
糖尿病外来	岩崎 琢也	上野 浩晶 (宮崎大学第3内科助教)				
頸動脈外来	岩崎 琢也	貴島 俊英 (柏村内科)				
義眼外来	貝田 智子	光安 哲人 (南アツザワプロテーゼ九州)				
眼瞼外来	向坂 俊裕					

 <b>医療法人 明和会 理事長</b> <b>宮田眼科病院 院長</b> みやた かずのり <b>宮田 和典</b> ◆医学博士 ◆眼科専門医 ◆宮崎大学臨床教授 ◆日本眼科学会指導医 ◆ICD 認定医	 <b>鹿兒島宮田眼科 院長</b> おおたに しんいちろう <b>大谷 伸一郎</b> ◆医学博士 ◆眼科専門医 ◆麻酔科標榜医 ◆日本麻酔科学会麻酔科認定医
 <b>宮田眼科病院 副院長・病棟医長</b> かたおか やすし <b>片岡 康志</b> ◆眼科専門医 ◆眼科 PDT 認定医	 <b>宮田眼科病院 副院長</b> なかじま りょうへい <b>子島 良平</b> ◆医学博士 ◆眼科専門医 ◆ICD 認定医
 <b>宮田眼科病院 診療部長・外来統括部長</b> もり ようさい <b>森 洋斉</b> ◆医学博士 ◆眼科専門医	 <b>宮田眼科病院 外来指導医</b> もちずき まなぶ <b>望月 學</b> ◆医学博士 ◆眼科専門医 ◆日本眼科学会指導医 ◆東京医科歯科大学名誉教授 ◆宮崎大学臨床教授
 <b>鹿兒島宮田眼科 副院長</b> かがや ふみえ <b>加賀谷 文絵</b> ◆医学博士 ◆眼科専門医 ◆補装具指定医	 <b>鹿兒島宮田眼科</b> なかむら やすこ <b>中村 ヤス子</b> ◆眼科専門医
 <b>医局員</b> かいだ ともこ <b>貝田 智子</b> ◆眼科専門医 ◆補装具指定医 ◆神経眼科相談医 ◆ベストドクターズ受賞 2020-2021	 <b>宮田眼科病院 内科部長・医局長・研究室長</b> いわさき たくや <b>岩崎 琢也</b> ◆医学博士 ◆一般内科医 ◆補装具指定医 ◆鹿児島大学非常勤講師
 <b>鹿兒島宮田眼科</b> はなや じゅんこ <b>花谷 淳子</b> ◆眼科専門医 ◆補装具指定医	 <b>医局員</b> さいのひら まゆみ <b>齊之平 真弓</b> ◆医学博士 ◆眼科専門医 ◆眼科 PDT 認定医 ◆補装具指定医 ◆日本ロービジョン学会理事 ◆鹿児島大学非常勤講師
 <b>副医局長</b> り じにい <b>李 真熙</b> ※東京大学より出向	 <b>医局員</b> きのした かつひと <b>木下 雄人</b> ※筑波大学より出向
 <b>医局員</b> おだ きみたか <b>織田 公貴</b> ※筑波大学より出向	 <b>医局員</b> たかはし しげふみ <b>高橋 重文</b> ※東京大学より出向
 <b>医局員</b> よこがわ ともひろ <b>横川 知弘</b> ※神戸大学より出向	



ORA™ System  
VerifEye+™  
Technology  
(Alcon 社)

## ORA™ System with VerifEye+™ Technology (術中波面収差解析装置)

通常の白内障手術では、術前の検査結果から挿入する眼内レンズの度数を決定します。現在、眼内レンズ度数計算の精度は非常に高いレベルではありますが、完璧とは言えず術後に度数ずれを生じる例を経験します。特に、多焦点や乱視矯正用眼内レンズは少しでも度数ずれを生じると、その効果を十分に発揮することができません。また、近視が強い方やレーシックを受けている方などでは、度数が大きすぎて術後の裸眼視力が不良となってしまうことがあります。

「ORA™ System (Alcon社)」は、切開創や水晶体を除去することによってわずかに変化した眼の状態に合わせて、より最適な眼内レンズ度数や挿入レンズの固定位置を術中リアルタイムに提供する装置及びソフトウェアです。手術医は、術中に患者の微妙に変化した屈折情報を把握して、術前のデータと比較しながら眼内レンズの度数を選択することができるため、患者様により満足度の高い視機能を提供することができます。さらに、このシステムは術後の屈折情報をフィードバックし、世界中の手術結果をもとに手術によって生じる変数を定期的に最適化・アップデートすることが可能であり、継続的な精度向上が期待されています。すでに「ORA™ System」は、世界で540の施設に設置され、40万以上の症例実績を有している術中診断ツールです。

また、乱視情報をガイドするシステムである「VERION™ (Alcon社)」とリンクすることで、さらに精度の高い手術を可能とした「VerifEye+™ Technology (Alcon社)」を当院では導入しております。

## ZEPTO

白内障手術において水晶体前嚢を切開することは重要な手技です。そこで、当院では前嚢切開における先進的なデバイスである「ZEPTO」を導入しました。ZEPTOは早く正確に、かつ安全性と再現性の高い前嚢切開を作成することができます。

また、プラズマ電流を用いており、手技中の動きを小さくすることができるので、水晶体を固定しているZinn小帯にストレスをかけることなく手術ができるようになります。したがって、落屑症候群を伴う症例や過熟白内障などの難しい症例にも有用なデバイスです。

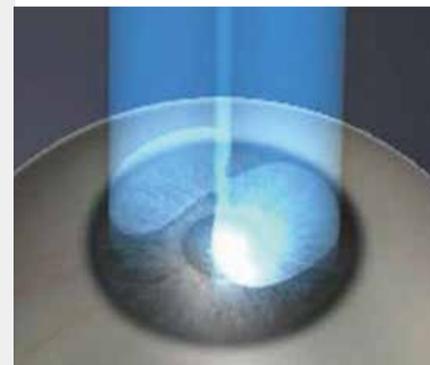
ZEPTO



▲リボフラビン点眼



▲紫外線照射



▲角膜形状に応じた  
パターン照射が可能

## カスタム角膜 クロスリンク Customized Corneal Cross-linking

Cross-linking (架橋結合)とは、ポリマー同士を連結し、物理的、化学的に性質を変化させる反応です。ヒトに応用した角膜クロスリンクは、リボフラビン(ビタミンB2)を角膜内に浸透させ、特殊な紫外線(365μm)を眼に照射することで角膜内のコラーゲンが架橋形成を起こし、角膜実質の強度を向上させる治療です。角膜クロスリンクにより、円錐角膜や近視矯正手術後の角膜拡張症などの進行を抑えることが可能となりました。当院はAvedro社のKXL® Systemの後継機であるMosaic™ Systemを導入しています。

これまでは均一に紫外線を照射していましたが、Mosaic™ Systemは角膜形状を考慮し、突出部に応じて紫外線照射を行うことが可能です。そのため、病気の進行を抑えるだけでなく、角膜形状を改善させる効果が期待されています。また、眼の動きを追従するアイトラッキング機能がついており、治療中に患者様の眼が動いても正確な照射をすることが可能です。



Mosaic™ System  
(Avedro社)



## ICL（有水晶体後房レンズ）

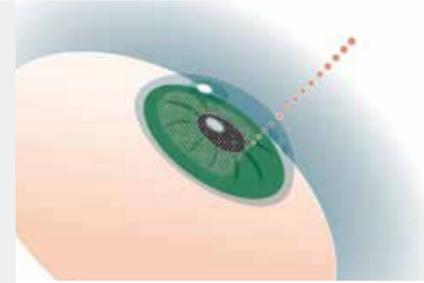
### Implantable Collamer Lens

当院は2014年より、屈折矯正手術である有水晶体後房レンズICL (Implantable Collamer Lens) 手術を行っております。ICLは、近視・遠視および乱視矯正を目的にSTAAR surgical社によって1994年に開発された後房型の有水晶体眼内レンズになります。

2003年～2004年に臨床試験が行われ、その良好な臨床成績から2010年に国内において厚生労働省の認可を得た唯一の有水晶体眼内レンズです。

ICLは長方形のレンズで素材はコラマーという重合体でできています。最初のレンズ開発から改良を重ねられ、現在当院で使用しているレンズは最新モデルであるKS-AquaPORT VICM5.VICM5 (乱視用) になります。

このICLはレンズ中央に0.36mmの微小な穴が作成されており、この穴によって従来必要であった虹彩切除が不要となるため、合併症（眼圧上昇、白内障）の軽減が期待されています。中央の穴は通常、見え方には影響しません。LASIKの適応外となるような強度近視症例に対しても良好な裸眼視力を得ることが可能であり、また屈折の戻りも少ないことが報告されています。



▲(図1)  
フェムトセカンドレーザー  
による角膜切除イメージ

## Femtosecond Laser IntraLase®

フェムトセカンドレーザーは、1000兆分の1秒という大変短い時間のレーザー光を集めて、角膜を切除する全く新しい技術です(図1)。当院が導入したフェムトセカンドレーザーは、米国Abbot社製の最新モデル、イントラレースiFSです。この装置は、2010年に厚生労働省の承認を取得しています。すでに、国内外で約330台(2011年4月時点)も使用され、臨床使用件数も10万以上と世界で最も多く使用されています。最新のフェムトセカンドレーザーの高い安全性と良好な術後成績が、これまでに多く報告されています。

フェムトセカンドレーザーでは、レーザー光線を集光させることにより、プラズマを発生させ、角膜の組織を切除できます。微小プラズマの生成により約1μlの角膜組織が気化され、二酸化炭素と水のバブルにより角膜組織に隙間が発生します。その後、二酸化炭素と水は吸収され、切断面が形成されます。この最先端のレーザー技術により、正確に任意の厚さ、形状で角膜を切除することが可能となりました。フェムトセカンドレーザーを使用することで、LASIK手術では正確な厚みを持ったフラップ作成を行えるようになります。またフェムトセカンドレーザーは、表層角膜移植術や、全層角膜移植術への応用も盛んに行われており、従来の術式に比べ、安全性、精度が高いことが期待されています。今後、当院でも角膜移植術を始め、乱視矯正手術や円錐角膜の治療にフェムトセカンドレーザーを用いる予定です。



## 感染性眼疾患の分子生物学的解析

当病院には民間病院には珍しく、バイオセーフティレベル BSL1 研究室と角膜研究室の2室があります。現在、BSL1にはバイオセーフティキャビネット、核酸自動抽出装置、4チャンネルリアルタイムPCR装置、ゲル撮影装置等が配置され、臨床検体の微生物学的、分子生物学的解析が進行中です。

眼科臨床では、感染性角膜炎、感染性結膜炎、ウイルス性ぶどう膜炎、感染性眼内炎など感染性疾患が多く、原因となった病原体を迅速に検出し、効果的な治療を開始することが、視機能温存のために必要とされています。患者様よりいただいた微量な検体を分子生物学的に解析し、病原体を迅速に検出することができます。東京医科歯科大学名誉教授の望月學先生を中心として開発されたウイルス・細菌・真菌に起因する眼内炎に対する迅速解析法(PCR法)が当研究室でも実施され、実際の症例の治療の参考データとなっています。

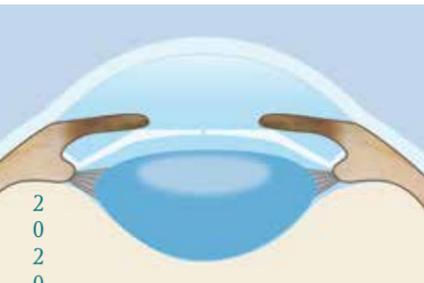
発症機序が解明されていない眼科疾患に罹患された患者様が日常診療において来院されることは多く、発症機序を解析・解明することは、治療ならびに予防に重要な情報となります。このような解析を行うためには、疾患を確実に診断し、適切に解析することが非常に大切です。当院では院内倫理委員会において臨床研究が慎重に審査され、すべての臨床研究は患者様からの同意のもとに、臨床と研究の場の空間的・時間的距離を短縮し、これまでできなかった新しい研究を実施することが可能となりつつあります。

## 日本アルコン社

### NGENUITY

### 3D ビジュアルシステム

手術用顕微鏡に日本アルコン社の3Dサージカルカメラを取り付けることにより3Dハイビジョンの画像を大型ディスプレイに映し出す事ができます。術者、手術室内のスタッフ全員が、同じ映像を共有することができるため、研修医、スタッフの教育では、より実践に近い指導が行えるようになりました。また、術者はディスプレイを見て手術をするため「頭を上げて」手術をすることが可能となり、術中、無理のない姿勢を取ることが出来ます。





▲全層角膜移植術後



▲角膜内皮移植術後

## 移植手術

当院では、国内提供角膜のみならず、海外提供角膜による角膜移植手術を行っております。海外提供角膜の場合、移植希望の患者様を長くお待たせすることも無く、当院での移植希望登録の後、約2~3ヶ月以内に角膜移植手術が受けられます。疾患に応じて、以下のように多様な手術術式を行っております。

### 全層角膜移植術

角膜全層を取り換える術式です。病変が角膜全層に及ぶ疾患も治療が可能です。

### 角膜パーツ移植術 (角膜内皮移植術・深層層状角膜移植術)

疾患により障害されている部分だけを移植する術式で、合併症の少ない方法です。角膜内皮細胞が障害されている疾患に対しては角膜内皮移植術、角膜実質のみ障害されている疾患には深層層状角膜移植術を行っており、良好な成績が得られています。

### 羊膜移植術

角膜穿孔など緊急を要する疾患に対して、保存羊膜による移植手術を行っております。また、再発翼状片、アルカリ外傷など重篤な疾患に対して、角膜輪部移植を併用した前眼部再建手術も行っております。

2019年度手術実績	全層角膜移植	角膜内皮移植	深層層状角膜移植	強角膜移植	羊膜・輪部移植	計
	5件	14件	4件	1件	5件	29件



▲日帰り手術  
患者様専用安静室

## 日帰り手術

宮田眼科病院及び、鹿児島宮田眼科の両院にて、日帰り手術を行っております。

- ◆ 屈折矯正手術 (LASIK は都城のみ・ICL)
- ◆ 白内障
- ◆ 外眼部手術
- ◆ 硝子体手術 (都城のみ)



▲BSL1 研究室



▲角膜研究室



▲フィブロンectin生成装置



▲蛍光顕微鏡で観察された真菌

## 研究室・角膜センター

当院では1996年に研究室・角膜センターを設置しました。この研究室はバイオセーフティレベルに応じてBSL1研究室および角膜研究室の2室より構成されています。

### BSL1 研究室

初期は病理・組織学的研究を中心に研究を開始し、2003年からは透過型ならびに走査型電子顕微鏡を導入し、マクロからミクロまでの研究が可能となりました。さらに、2015年からは安全キャビネットならびにリアルタイムPCR装置 (BioRadCFX96)を導入し、患者様から戴いた検体のウイルス感染の分子生物学的解析が開始され、迅速診断もできるようになりました。アガロースゲル電気泳動、SDS-PAGEの解析も可能となり、眼科疾患の病態を解明するための遺伝子レベル・蛋白レベルの研究も進行中です。

### 角膜研究室

2台の安全キャビネットを設置し、それぞれを角膜移植のグラフト調整ならびに細胞培養に使用しています。CO<sub>2</sub>インキュベーター、-150℃と-80℃の超低温冷凍庫、倒立型顕微鏡、角膜内皮細胞測定装置、オートクレーブを備えています。

### 角膜センター

併設している角膜センターでは、緊急の際にも角膜移植術を行えるよう、国内の提供角膜のみならず、米国からの海外提供ヒト角膜の管理・保管を行っております。

## フィブロンectin・自己血由来 点眼液 (血清点眼等) の調製

角膜疾患の治療に有効とされているフィブロンectin・血清点眼液を患者様本人の血液から清潔操作下で調製しています。

## 蛍光顕微鏡検査

角膜真菌症やヘルペス性角膜炎の検査に蛍光顕微鏡を用い、正確かつ迅速な診断を行っています。

## 第34回 JSCRS 学術総会

2019年6月28日～30日に京都の平安神宮近くにある京都市勧業館“みやこめっせ”にて、第34回JSCRS学術総会を開催させて頂きました。昨年のJSCRS学術総会においては特別講演のご指名を頂き、その翌年に総会を主催させて頂くことは誠に光栄の至りであります。

本学術総会の特別講演では、白内障研究の権威である金沢医科大学教授の佐々木洋先生にご講演頂きました。白内障治療において最良の術後視機能と高い満足度を得るために必要な術前後の評価方法について、これまでの研究から得られた知見を中心に紹介して頂き、まさに明日からの実臨床に役立つ大変興味深いご講演でした。会長企画としては、「今知るべき最新重要情報」と題して、「医療機器の単回使用」、「未承認と適応外使用および臨床研究法」、「多焦点眼内レンズと先進医療」について各分野でご活躍されている先生方にご講演頂きました。臨床研究から実臨床に必要な最新の情報を得ることができ、非常に勉強になりました。その他、様々なシンポジウム、教育セミナーやインストラクションコースを開催し、また多くの一般講演を発表して頂きました。初日の夜にはウェルカムレセプションを行い、大橋裕一先生、大鹿哲郎先生を中心にライブ演奏を披露して頂き、大いに盛り上がりました。

お蔭様をもちまして盛会のうちに無事、第34回JSCRS学術総会を終了することができました。今回、多数のご参加をいただきまして、誠にありがとうございました。これもひとえに皆様のご支援ご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

第34回 JSCRS 学術総会 会長 宮田 和典



# 「点眼薬の長期使用患者における眼表面常在細菌叢の特徴」 プロスタグランジン関連緑内障

現在、緑内障の治療手段のうち、眼圧下降のみがエビデンスに基づいた唯一かつ確実な治療法であり、プロスタグランジン関連薬に代表される薬物点眼療法、線維柱帯切除術に代表される手術療法が用いられています。緑内障治療の最終目的は生涯にわたる視機能の維持であることから、結果的に多くの症例で、緑内障点眼薬の長期使用が行われています。症例によっては、数十年にわたって、同一の点眼薬が使用されることもあり、短期間の使用では問題無いと考えられる眼表面への僅かな影響が、長期使用により何らかの問題が生じる可能性は否定できません。

点眼薬の長期使用に伴う角膜上皮、結膜上皮への影響についてはこれまでに多くの研究が行われています。その一方、眼表面の構成要素として重要と考えられる常在細菌叢への影響については、ほとんど検討されていません。今回、緑内障点眼薬のひとつであるプロスタグランジン関連緑内障点眼薬の長期使用による眼表面常在細菌叢への影響を検討しました。

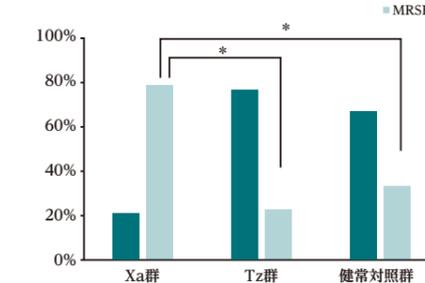
対象は2014年2月から9月までに1年間以上、プロスタグランジン関連緑内障点眼薬を単剤で継続している患者および対照としての健常成人ボランティアです。

緑内障点眼薬を使用していた症例は合計63名63眼。そのうち36眼はラタノプロスト0.005% (以下Xa群)を、27眼はトラボプロスト0.004% (以下Tz群)を用いていました。健常成人ボランティア (以下、健常対照群) は合計44眼です。

使用していた緑内障点眼薬別の菌検出率はXa群88.9% (46株)、Tz群92.6% (33株)であり、両群間に有意差はありませんでした。両群ともに *Staphylococcus epidermidis* が最も多く、*Propionibacterium acnes*、*Staphylococcus aureus*、CNSがそれに続いていました。

最も検出率の高かった *Staphylococcus epidermidis* の内訳は、Xa群はMSSE (methicillin-sensitive *Staphylococcus epidermidis*) 4株、MRSE (methicillin-resistant *Staphylococcus epidermidis*) 15株、Tz群はそれぞれ10株、3株、健常対照群はそれぞれ20株、10株であり、Xa群のMRSE頻度がTz群、健常対照群に比べ有意に高い結果でした。またTz群と健常対照群に有意差はありませんでした (図)。

図. MSSEとMRSEの比率



\* P < 0.05 (Fisher's exact test)  
Xa群 対 Tz群: P = 0.0033、Xa群 対 健常対照群: P = 0.0031、  
Tz群 対 健常対照群: P = 0.7203

今回は、プロスタグランジン関連緑内障点眼薬を単剤で1年間以上使用していた患者を対象に眼表面常在細菌叢を検討したところ、使用していた点眼薬の種類によって常在細菌の抗菌薬に対する感受性が異なっていました。このことは、緑内障点眼薬の長期使用は、眼表面常在細菌叢に対して何らかの影響を与えていることを示唆しています。

両緑内障点眼薬の違いとして、添加物であるbenzalkonium chloride (BAC)含有の有無があり、今回の結果の一要因となった可能性が考えられます。本来、BACのような消毒薬は、抗菌薬と異なり、実用濃度で使用していれば、耐性菌は生じないと考えられています。しかし、実用濃度よりはるかに低い濃度で消毒薬を使用した場合、消毒薬に対する耐性菌が出現する可能性が指摘されています。

通常、点眼薬容器内のBAC濃度は、細菌の最少発育阻止濃度よりも高く、容器内汚染の予防効果が確認されています。すなわち容器内においては適切な濃度が達成されていると考えられます。しかし、点眼後、BACは直ちに涙液によって希釈され、経時的にその濃度が低下し、点眼5分後に1/10以下となり、以後も緩やかに低下するとの報告があり、眼表面の常在細菌が消毒薬の適切な濃度よりも低い濃度に暴露される機会の存在が推察されます。

近年、消毒薬に対して高い耐性を有する菌において、耐性遺伝子の獲得や変異が存在することが指摘され、その耐性機序として、消毒薬の菌体外への排出機構 (Efflux機構) の亢進が知られています。この機構には、薬剤特異性が無いため、消毒薬への耐性を有する細菌は、消毒薬のみでなく、抗菌薬への交差耐性を獲得することが指摘されています。今回の研究において、BAC含有の有無により、眼表面常在菌の抗菌薬に対する薬剤感受性が異なった原因のひとつとして、我々はEfflux機構の発現を考えています。現在、本研究における培養株を用い、Efflux機構と関連があるとされている耐性遺伝子qacA、qacBの有無について追加研究を行っており、近日中に報告できる見込みです。

表. *S. epidermidis* の薬剤感受性率の比較

	Xa群	Tz群	P値 (Xa vs. Tz)	健常対照群	P値 (Xa vs. Ht)
LVFX	21.1	76.9	0.0033	70.0	0.0012
GFLX	21.1	76.9	0.0033	70.0	0.0012
MFLX	26.3	76.9	0.0105	70.0	0.0038
CAZ	26.3	69.2	0.0293	86.7	0.0002
CMX	84.2	100.0	0.2523	100.0	0.0526
TOB	36.8	76.9	0.0359	83.3	0.0017
CP	78.9	92.3	0.6247	100.0	0.0185
EM	31.6	69.2	0.0702	50.0	0.2467

薬剤感受性率 (%), Ht: 健常対照群  
LVFX: levofloxacin; GFLX: gatifloxacin; MFLX: moxifloxacin; CAZ: ceftazidime  
CMX: cefmenoxime; TOB: tobramycin; CP: chloramphenicol; EM: erythromycin.

鹿児島宮田眼科 院長 大谷 伸一郎

**ICT委員会**  
Infection Control Team



**目的** ◆感染制御の専門チームとして、感染対策の実践・向上のための活動を行う

**活動内容**

**感染予防対策の作成** ◆感染対策マニュアル作成・改訂  
◆特定の感染症に対する対策プロトコルの作成・改訂

**実態調査と報告** ◆感染症サーベイランス…多剤耐性菌が出現した場合は速やかに報告  
◆抗菌薬使用調査…特に広域スペクトル抗菌薬の適正使用の提言を行う

**職員教育** ◆特定の感染症が疑われる場合に適切な隔離予防策を指導  
◆標準予防策や手洗いなどの職員教育

**実践・指導** ◆年4回以上、感染管理加算 I 取得施設との合同カンファレンスを実施  
◆ラウンドの実施による実態確認と指導



**院内感染予防  
対策委員会**



**目的** ◆院内感染防止、リスクを効果的に低減し二次感染を起こさない  
◆医療者の健康と安全の確保  
◆感染管理の改善や教育

**目標** ◆感染対策への知識を深める  
◆院内感染防止マニュアルを生かし活動していく

**活動内容** ◆マニュアルを整備し（感染リスクをスパイラル診断）、必要に応じて見直しを行う  
◆院内感染対策に向けて体系の構築、二次発症の早期発見と予防に努める  
◆院内環境の整備  
◆職員への教育と啓発活動

**医療安全管理  
委員会**

**目的** ◆医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立

**活動内容** ◆全職員を対象とした院内研修の実施  
◆院外研修会への参加  
◆院内でのアクシデント・インシデントの検討と対策  
◆医薬品及び医療機器に係る安全管理のための体制を確保  
◆患者様・ご家族からの相談と対応

**衛生委員会**

**目的** ◆労働者の健康障害の防止や健康の保持促進に関する取り組みなどの重要事項について、調査審議を行う

**クリニカルパス  
委員会**

〔各クリニカルパス委員会〕  
外眼部／前眼部／白内障／  
緑内障／網膜硝子体／斜視／  
循環動態 等

**目的** ◆医療に携わるスタッフ全員が、診療・検査・看護・医療行為の標準化を検討し、医療の安全・質を見直し、より良い医療・ケアの提供を行う

**目標** ◆クリニカルパスの必要性を理解し、標準化を図る  
◆標準化されたクリニカルパスの問題抽出と検討、評価  
◆医療行為内容の変更に伴うクリニカルパスの標準化・検討

## 院内総合電子化委員会



- 目的**
- ◆院内のリソースを最大限に活用するために、院内電子化を進める
  - ◆電子化に伴い、従来の業務に潜むムダ、ムリ、ムラを徹底的に見直し、業務改善を行う必要がある場合は、各部署から出された委員を中心にBPR※1を行う
- ※1 Business Process Re-engineering / 業務の流れを分析し、最適化すること
- 活動内容**
- ◆業務を可視化するためHIT.s法※2を用いて現場業務の洗い出しを行う
  - ◆現状業務とパッケージソフトのHit & Gapを行い、Gap部の運用を検討
  - ◆電子カルテ稼働に向けてパッケージソフトの導入を行った結果、2019年9月より、宮田眼科病院・鹿児島宮田眼科両院同時に電子カルテを稼働
- ※2 Human resource Intelligence Technology / 知的人材生産性技法
- 今後の活動**
- ◆電子カルテ稼働後のBPRは継続的に行う
  - ◆蓄積されたデータを二次利用するための基盤を整える

## ホームページ委員会



- 目的**
- ◆患者様を含む地域住民や関係者の情報媒体として、有益で利便性向上に供する最新のコンテンツを発信する
  - ◆病院理念である「最新にして最高の医療体制」に基づき、最新の技術・最新の機器導入による地域の眼科医療への取り組みをアピールする
- 活動内容**
- ◆定期会議（月1回実施）
  - ◆ホームページコンテンツを定期的に更新

## 教育委員会



- 目的**
- ◆看護職員及び医療スタッフが主体となり、専門職としての知識や技術向上・職員の育成、各部署でテーマを決めた院内研修報告を行う
  - ◆個々のスタッフが日々の業務の中で問題意識を持つことや研修成果を共有し、患者様の視点に立った医療に努める
- 活動内容**
- ◆委員会（毎月実施）
  - ◆部署別の院内研修計画及び研修報告会
  - ◆医師による講義（毎月実施）
  - ◆新人教育
  - ◆院外研修参加後の院内研修計画および報告会
  - ◆救急法講義（年2回実施）
  - ◆学会発表（年2、3回実施）

## 21 接遇委員会

- 目的**
- ◆病院理念・看護理念・看護目標をスタッフへ再確認してもらい、より良い接遇へ改善する
- 病院理念 “病める人々へ光ある喜びを”
- ◆最新にして最高の医療体制の元に、安心と信頼を絆とする医療活動に努める
- 
- 看護理念**
- ◆個々のニーズに応じた看護を提供する
  - ◆医療チームの一員としての自覚を持ち、信頼関係を保って協働する
- 
- 看護目標**
- ◆患者様のニーズに沿った優しさのある看護を行う
  - ◆常に自己研鑽し高度な医療及び看護水準の保持に努める
  - ◆お互いの理解と協力により、明るく節度ある職場づくりに努める
- 
- 活動内容**
- ◆委員会（月1回実施）
  - ◆勉強会（年に数回、講師を招き実施）
  - ◆各部署にエチケットリーダーを設け、チェックシートを用い、意識向上の継続を図る

## 治験審査委員会

- 目的**
- ◆治験実施機関が治験を実施する際に厚生労働省に届け出た治験デザインを審査する中立的な組織で、治験の倫理性、安全性、科学的妥当性を審査する

## 病診連携委員会

- 目的**
- ◆患者様により良い医療を受けていただく為に、各医療機関と連携しながら、患者様の継続的な治療に努める
- 活動内容**
- ◆委員会（月1回実施）
  - ◆紹介元、紹介先医療機関に関するデータ管理
  - ◆病院の概要や活動に関する年次報告書の発行

## 倫理審査委員会

- 目的**
- ◆人を対象とする臨床研究においては、被験者保護や研究の質の確保のために、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき、研究の実施または継続について審査する

## 医局ミーティング



- 目的**
- ◆医師、検査室スタッフ、看護スタッフ、治験スタッフが医局に集合し、進行中の臨床研究ならびに治験の進捗状況を確認する。特に臨床研究においては問題点と今後の方向性を検討する
  - ◆学会発表予定を確認する。スタッフ間の情報を共有する
  - ◆症例検討、特に治療方針について検討する
- 活動内容**
- ◆定期会議 毎週水曜日診療開始前に実施



## 責任者会議



- 目的**
- ◆各部署の責任者や各委員会の代表者が出席し、部署内や委員会の連絡事項を報告する
- 活動内容**
- ◆定期会議 (月1回実施)

## CS会議 Customer-Support Team



- 目的**
- ◆患者様の満足度向上のために、医師のスケジュール調整を行い、診療や手術がスムーズに運ぶようにする
- 活動内容**
- ◆月1回、院長を交えてミーティング
  - ◆医師の勤務変更等が生じたときなど、臨時に各委員を招集し会議を行う

## オーベン会議

- 目的**
- ◆臨床研修医の外来診察、手術、研究内容の進捗状況と課題点について確認し、どのように指導していくかについて検討する
  - ◆医局の運営方針について話し合う
- 活動内容**
- ◆定期会議 (月1回実施)



## 企画会議



- 目的**
- ◆病院全体の活性化や職員のモチベーションの向上に努める
- 活動内容**
- ◆院内で行われる各種イベントの企画・運営等

## 「最近の眼内レンズと術後合併症」

永田 万由美先生

永田先生には「最近の眼内レンズと術後合併症」というテーマでご講演をしていただきました。術後合併症として主に前嚢収縮と後発白内障が術後視力に大きな影響をあたえます。前嚢収縮は、コントラスト感度の低下を認めますが、視力の影響が少ない場合が多いです。そのため術後診察の際に散瞳をして、早期発見をする必要があることをご教授いただきました。後発白内障の発症を防ぐために、どのようにレンズを表面加工しているか、レンズと後嚢の接着を工夫して水晶体上皮細胞の増殖を防いでいるかなどをご教授いただきました。

各疾患が発症する機序、対処法、診療時の注意点などを示していただき、非常に勉強になりました。

## 「親水性眼内レンズの混濁、賢者は歴史に学ぶ」

小早川 信一郎先生

日本医科大学武蔵小杉病院の小早川信一郎先生をお招きし、親水性眼内レンズ(IOL)についてのご講演をしていただきました。

内容は、親水性IOLの術後混濁やカルシウム沈着が視機能の低下を引き起こしてきた歴史や親水性IOLの現状に始まり、術後眼内炎を抑制するために抗菌薬を徐放するコンタクトレンズを実験的に作成したこと、人工虹彩についてなど、多岐に渡りました。

小早川先生の今までの多大なる業績を、ほんの一部ですが、垣間見られた貴重な時間でした。



## 「疎水性アクリル眼内レンズ混濁の評価」

松島 博之先生

今回、獨協医科大学病院の松島博之先生に、疎水性アクリル眼内レンズ混濁の評価に関してご講演いただきました。

普段の診察で気になっていた疎水性眼内レンズの混濁の分類や、その発症メカニズムから始まり、その混濁の程度の評価方法や、視機能にどれくらい影響しているかなど様々な切り口からみた内容でした。

非常にミクロな視点からの解説は、文献で調べてもなかなか詳細な記述が少ない内容でもあり、疎水性アクリル眼内レンズの性質に関して体系的に学べた貴重な機会でした。

2019年 クリニカルクラークシップ

村上 香織  
渡邊 真子  
榛澤 空良  
吉満 直哉  
森田 倫生



宮崎大学  
医学部医学科6年  
吉満 直哉

私は5年次に宮田眼科を訪れた際に、最先端の治療と研究が両立している本院を見て強い衝撃を受けました。また将来の進路に眼科も考えているので今回実習させて頂きました。

実習では外来や手術、検査と多くの経験を通し、洗練された医療連携や外来での正確な診断など高度な医療に触れることが出来ました。中でも最も惹かれたのは、手術における卓越した技術です。一つ一つの処置が丁寧でありながら効率的で手術時間が短く、先生方の患者さんへの負担を減らしたいという熱意を感じました。

この充実した2週間が過ごせたのは、宮田眼科が教育に力を入れているからだと思います。学生だけでなく若手の先生にもベテランの先生方が熱心に指導されている様子を見て、自分もこういった恵まれた環境で働きたいと考えるようになりました。貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございました。

この充実した2週間が過ごせたのは、宮田眼科が教育に力を入れているからだと思います。学生だけでなく若手の先生にもベテランの先生方が熱心に指導されている様子を見て、自分もこういった恵まれた環境で働きたいと考えるようになりました。貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございました。

2019年 後期研修医実習

南館 理沙  
関 沙織  
恒矢 美貴  
馬場口 紘成  
秋山 拓也  
河崎 勇貴  
小沢 理音  
三原 現  
張本 亮  
高橋 重文



東京大学  
秋山 拓也

1週間大変お世話になりました。

宮崎を訪れるのは今回が初めてでしたので出発前は不安を感じましたが、研修が始まってみると院長をはじめ先生方やスタッフの皆様に歓迎していただき、充実した毎日を送ることができました。外来や病棟、手術室で研修をさせて頂きましたが、眼科の地域医療のみならず都市部の大病院と同等またはそれ以上の最新治療が提供されて多くの学びがありました。都市部の大学病院と異なり医師の数が限られる中で、効率良く診察や手術が進められるよう各所に工夫が凝らされていて驚きました。また患者様は宮崎県外からも広く来院されていて南九州の眼科診療において最も重要な役割を担っている専門病院の一つであると感じました。このたびは貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

この充実した2週間が過ごせたのは、宮田眼科が教育に力を入れているからだと思います。学生だけでなく若手の先生にもベテランの先生方が熱心に指導されている様子を見て、自分もこういった恵まれた環境で働きたいと考えるようになりました。貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございました。

治療機器



① エキシマレーザー

[対象疾患] 近視矯正・遠視矯正・乱視矯正



② PDT (photodynamic therapy)

[対象疾患] 加齢黄斑変性



治療機器

③ 各種レーザー機器

- ◆ダイレーザー：眼底の光凝固術など
- ◆SLT：眼圧を下げる
- ◆ヤブレーザー：後発白内障の後嚢切開術
- ◆TTT：新生血管の活動を低下させる など



④ 角膜クロスリンクング  
Mosaic™ System

[対象疾患]  
円錐角膜・屈折異常眼



⑤ ORA™ System with VerifEye+™

[対象疾患] 白内障



⑥ フェムトセカンド レーザー

[対象疾患] 角膜疾患



⑦ NGENUITY®3D ビジュアルシステム

[対象] 手術全般・教育ビデオ



検査機器



※ご希望頂ければ、各種検査機器他による検査データをご提供いたします。



◆前眼部OCT CASIA2  
[検査部位] 前眼部および角膜の断面  
[疾患] 角膜疾患・隅角性緑内障等の前眼部疾患全般



◆ウェーブスキャン  
[検査部位] 眼球光学系  
[疾患] 円錐角膜・白内障・不正乱視・屈折矯正手術



◆アコモレフ  
[検査部位] 調節・屈折  
[疾患] 眼精疲労・調節障害



◆皮膚ERG (左)  
◆多局所ERG (右)  
[検査部位] 網膜  
[疾患] 網膜疾患



◆HRTII -角膜モジュール (Confocalemicroscopy)  
[検査部位] 角膜  
[疾患] 角膜疾患



◆光干渉眼軸長測定装置 OA2000  
[検査部位] 前眼部および眼軸長  
[疾患] 白内障・強度近視



◆ハイデルベルグスペクトラリス OCT-Angiography  
[検査部位] 網膜・脈絡膜・前眼部  
[疾患] 眼底疾患全般・緑内障・前眼部疾患



◆ハイデルベルグスペクトラリスHRA  
[検査部位] 網膜・脈絡膜  
[疾患] 眼底疾患全般



◆パノラミック オフサルモ スコープカリフォルニア  
[検査部位] 網膜・脈絡膜  
[疾患] 眼底疾患全般



◆頸動脈エコー  
[検査部位] 頸動脈  
[疾患] 網膜静脈閉塞症・網膜動脈閉塞症



◆VERION Vision Planner  
[検査部位] 角膜  
[疾患] 白内障



◆ゴニオスコープGS-1  
[検査部位] 隅角  
[疾患] 緑内障・ぶどう膜炎

## 宮田眼科病院

### 2019年 患者数

手術総数	8,014 件
入院患者延べ人数	21,194 人
外来新患人数	4,248 人
外来患者延べ人数	107,995 人
1日の平均来院患者数	411 人

※土曜日 0.5 日換算

### 治験実績

(2019年12月末現在)

[対象疾患]	[区分]	[相]	[依頼企業]
近視	医療機器	—	H社
緑内障	医薬品	第III相	C社
糖尿病黄斑浮腫	医薬品	第I相	T社
白内障	医療機器	—	A社
加齢黄斑変性症	医薬品	第III相	C社
単純ヘルペスウイルス	医薬品	第II相	U社
屈折異常	医療機器	—	V社

※過去2年間の実績並びに現在進行中の治験実績です。  
※宮田眼科病院では、1989年以降、110件の治験実績があります。



### 手術実績

[手術内訳]	[症例数]
白内障手術	3,164 件
二次移植	3 件
屈折矯正手術 ICL	26 件
〃 LASIK	20 件
網膜硝子体手術	807 件
緑内障手術	224 件
外来レーザー手術	1,114 件
角膜移植術	29 件
鼻涙管	78 件
眼瞼・形成	211 件
翼状片	205 件
PTK	32 件
斜視	169 件
クロスリンクング	21 件
硝子体注射	1,666 件
その他	245 件
手術総数	8,014 件

### 角膜移植術内訳

- 全層角膜移植 ..... 5 件
- 角膜内皮移植 ..... 14 件
- 深層層状角膜移植 ..... 4 件
- 強角膜移植 ..... 1 件
- 人工角膜移植 ..... 0 件
- 羊膜・輪部移植 ..... 5 件

## 鹿児島宮田眼科

### 2019年 患者数

手術総数	1,822 件
外来新患人数	3,416 人
外来患者延べ人数	52,134 人
1日の平均来院患者数	198 人

※土曜日 0.5 日換算

### 手術実績

[手術内訳]	[症例数]
白内障	532 件
硝子体	19 件
緑内障	30 件
眼瞼手術	49 件
翼状片	51 件
屈折矯正	26 件(H-ICL)
硝子体注射	634 件
ボトックス注射	45 件
外来レーザー	400 件
その他	36 件

### 治療実績

オルソケラトロジー	24 件
-----------	------



現在実施中の治験については患者様の募集も行っております。  
該当される患者様がおられましたら、ご紹介いただけますと幸いです。



## 2018年

題名	雑誌名	巻・号	ページ
Quantitative analyses of factors related to anxiety and depression in patients with retinitis pigmentosa.	PLOS ONE	13(4)	e0195983
術前減菌および周術期の保清について教えてください	あたらしい眼科	臨時増刊号	171 - 173
Collagen fiber changes related to keratoconus with secondary corneal amyloidosis.	Int Med Case Rep J	11	193 - 199
薬剤感受性試験で耐性を示したにもかかわらずレボフロキサシン点眼が著効したノカルジア角膜炎の1例	あたらしい眼科	35(11)	1545 - 1549
Sustainability of pain relief after corneal collagen cross-linking in eyes with bullous keratopathy.	Asia Pac J Ophthalmol	7(5)	291 - 295
散瞳不良例への対応	これでわかる! 高機能眼内レンズ		170 - 173
翼状片の進展率に基づく重症度分類の検討	日本眼科学会雑誌	122(8)	586 - 592
健常者におけるプリモニジンとリバスジルの単回併用点眼による眼圧下降効果、瞳孔径、結膜充血の検討	日本眼科学会雑誌	122(6)	453 - 459
人工角膜 Boston keratoprosthesis 移植後の真菌性角膜炎の検討	日本眼科学会雑誌	122(7)	509 - 516
Influence of pterygium size on corneal higher-order aberration evaluated using anterior-segment optical coherence tomography.	BMC Ophthalmol	9:18(1)	166
常在菌の動向・減菌化	臨床眼科	72(7)	930 - 933
Predictability of intraocular lens power calculation for cataract with keratoconus: A multicenter study.	Sci Rep	8(1)	1312
Detection of increase in corneal irregularity due to pterygium using Fourier series harmonic analyses with multiple diameters.	Jpn J Ophthalmol	62(3)	342 - 348
Optical coherence tomography examination of the anterior segment in a case of corneal perforation and lens trauma by chestnut burr.	Case Rep Ophthalmol	9(1)	154 - 159
Interaction between pilocarpine and ripasudil on intraocular pressure, pupil diameter, and the aqueous-outflow pathway.	Invest Ophthalmol Vis Sci	59(5)	1844 - 1854
Quantitative analyses of factors related to anxiety and depression in patients with retinitis pigmentosa.	PLOS ONE	13(4)	e0195983
前方偏位した支持部を有したトーリック眼内レンズの術後長期安定性	IOL&RS	32(1)	85 - 89
Influence of surface light scattering and glistenings of intraocular lenses on visual function 15 to 20 years after surgery.	J Cataract Refract Surg	44(2)	219 - 225
角膜移植後に外傷により創口離開した症例の検討	あたらしい眼科	35(2)	253 - 257
Outcomes of bee sting injury: comparison of hornet and paper wasp.	Jpn J Ophthalmol	62(2)	221 - 225
Effect of laser peripheral iridotomy using argon and neodymium-YAG lasers on corneal endothelial cell density: 7-year longitudinal evaluation.	Jpn J Ophthalmol	62(2)	216 - 220
熊肉摂取後に発症した旋毛虫症にぶどう膜炎を合併した2例	臨床眼科	72(3)	363 - 367
Incidence and outcomes of repositioning surgery to correct misalignment of toric intraocular lenses.	Ophthalmology	125(1)	31 - 35
白内障	今日の治療指針 2018		1492 - 1493
Photorefractive keratectomy (PRK) の再評価	眼科手術	31(1)	5 - 10

## 2019年

題名	雑誌名	巻・号	ページ
Effect of the ratio of axial length to keratometry on SRK/T intraocular lens power calculations for eyes with long axial lengths.	Sci Rep	9(1)	19515
角膜穿孔に対してシアノアクリレートが有効であった2例.	あたらしい眼科	36(12)	1591-1595
術前・術中における消毒法の注意点.	あたらしい眼科	36(12)	1541-1545
網膜色素変性専門外来開設に向けたアンケート調査.	日本ロービジョン学会誌	18	127-129
Clinical courses of corneal endothelial dysfunction due to <i>Gomphocarpus physocarpus</i> milky latex-induced injury: A case series.	Clin Ophthalmol	Nov 22:13	2293-2299
角膜真菌症の診断と治療について教えてください.	あたらしい眼科	増刊号	24-27
網膜色素変性②ロービジョンケア.	メディカル眼科治療	増刊号	333-339
Blue light-filtering and violet light-filtering hydrophobic acrylic foldable intraocular lenses: Intraindividual comparison.	J Cataract Refract Surg	45(10)	1393-1397
Comparison of incidence of repositioning surgery to correct misalignment with three toric intraocular lenses.	Eur J Ophthalmol	9(1)	13117
Keratoconus detection using deep learning of colour-coded maps with anterior segment optical coherence tomography: a diagnostic accuracy study.	BMJ Open	9(9)	e031313
Activation of the sphingosine 1 phosphate-Rho pathway in pterygium and in ultraviolet-irradiated normal conjunctiva.	Int J Mol Sci	20(19)	e4670
One-year clinical evaluation of rotationally asymmetric multifocal intraocular lens with +1.5 diopters near addition.	Sci Rep	9(1)	13117
Effect of topical prostaglandins on the biomechanics and shape of the cornea.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol	257(10)	2213-2219
Twelve-month efficacy and safety of glaucoma filtration device for surgery in patients with normal-tension glaucoma.	Jpn J Ophthalmol	63(5)	402-409
Central and peripheral corneal endothelial cell analysis with slit-scanning wide-field contact specular microscopy: agreement with noncontact specular microscopy.	Cornea	38(9)	1137-1141
グレア・ハロー・dysphotopsia.	臨床眼科	73(9)	1122-1127
眼科周術期における感染症対策 最近の考え方.	眼科	61(7)	733-738
周術期の抗菌薬はいつやめるべきか.	OCULISTA	72	95-101
白内障手術と Patient-based medicine.	IOL&RS	33(2)	268-277
Effect of topical steroid instillation on central corneal thickness in eyes with bullous keratopathy.	Jpn J Ophthalmol	63(3)	229-233
人工角膜の現状と可能性.	眼科	61(5)	487-495
局所麻酔の合併症.	日本の眼科	90(4)	457-458
再発のリスクが高い翼状片に対する手術.	眼科手術	32(2)	200-206
Spontaneous resolution of myopic foveoschisis and a macular hole with retinal detachment.	Am J Ophthalmol Case Report	9(13)	143-146
Additive intraocular pressure-lowering effects of the Rho kinase inhibitor ripasudil in Japanese patients with various subtypes of glaucoma.	Jpn J Ophthalmol	63(1)	40-45
周術期の抗菌点眼薬使用.	日本の眼科	90(2)	155-156
繰り返すリウマチ性角膜穿孔.	眼科手術	32(1)	103-107
含水率を高くした疎水性アクリル眼内レンズにおける術後長期の表面散乱.	臨床眼科	73(3)	291-295
2014 ~ 2016 年における細菌性角膜炎からの分離株に対する抗菌薬感受性の年別推移.	日本眼科学会雑誌	123(2)	135-142
ドナー角膜保存液の微生物汚染状況および培養陽性例の検討.	日本眼科学会雑誌	123(1)	58-63

Impact Factor : Total 552.73

(1997年4月~2020年1月現在)

## 霧島眼科研鑽会

※講演者の所属・役職は当時のものです。

回	開催日	講演者	所属	役職	演題名
	1998年 9月 19日	白土 城 照	東京医科大学眼科	助 教授	視神経乳頭の見方
1	1999年 1月 23日	高 村 悦 子	東京女子医科大学	助 教授	アレルギー性結膜炎の診断と治療
2	3月 27日	戸 張 幾 生	東邦大学医学部	教 授	網膜静脈閉塞症のレーザー治療
3	5月 15日	竹 内 忍	東邦大学医学部	教 授	網膜裂孔と予防手術について
4	10月 2日	望 月 學	東京医科歯科大学	教 授	ぶどう膜炎診断のキーワード
5	2000年 3月 18日	西 田 輝 夫	山口大学医学部眼科	教 授	角膜上皮障害の管理について
6	7月 22日	濱 野 孝	ハマノ眼科	院 長	ドライアイの治療について
7	2001年 1月 20日	白土 城 照	東京医科大学眼科	教 授	正常眼圧緑内障
8	10月 20日	大 鹿 哲 郎	東京大学眼科	助 教授	分かりやすい眼科学の話
		宮 田 和 典	宮田眼科病院	院 長	近視矯正手術の効果と合併症
		中 原 正 彰	宮田眼科病院	副 院長	網膜剥離手術予後不良例の検討
9	2002年 4月 20日	山 口 晶 彦	松山赤十字病院眼科	副 部長	ドライアイの診断
		横 井 則 彦	京都府立医科大学眼科	助 教授	結膜弛緩症とドライアイ
		島 崎 潤	東京歯科大学市川総合病院眼科	助 教授	重症オキュラーサーフェス疾患の治療
10	11月 30日	岡 本 茂 樹	幸塚眼科	院 長	角膜移植 最近の動向
		前 田 直 之	大阪大学大学院感覚機能形成学分野	助 教授	波面センサーの臨床応用
		ピッセン宮島 弘子	東京歯科大学水道橋病院眼科	助 教授	LASIKの実際
11	2003年 8月 23日	中 村 泰 久	聖隷浜松病院眼形成眼窩外科	部 長	眼形成眼窩外科のいくつかの症例
12	2004年 4月 3日	浅 利 誠 志	大阪大学医学部附属病院感染制御部	副 部長	世界標準の予防策と耐性菌最前線
		井 上 幸 次	鳥取大学医学部視覚病態学	教 授	感染性結膜炎・角膜炎の診断と治療
		大 橋 裕 一	愛媛大学医学部眼科	教 授	白内障術後眼内炎Q&A
13	2005年 3月 5日	栗 橋 克 昭	栗橋眼科	院 長	涙道手術とドライアイ
14	2006年 9月 30日	新 家 眞	東京大学大学院医学系研究科眼科学	教 授	閉塞隅角緑内障について
15	2007年 9月 1日	永 本 敏 之	杏林アイセンター	准 教授	成熟・過熟・膨潤白内障の手術
		宮 田 和 典	宮田眼科病院	院 長	角膜上皮障害眼への白内障手術
		常 岡 寛	東京慈恵会医科大学眼科学講座	教 授	小瞳孔眼
16	2008年 3月 8日	大 木 孝 太 郎	大木眼科	院 長	新しい多焦点眼内レンズの臨床
		垣 淵 正 男	兵庫医科大学形成外科学講座	教 授	形成外科における眼瞼および眼窩疾患に対する治療
17	10月 4日	加 藤 聡	東京大学医学部眼科	准 教授	糖尿病網膜症に対する網膜光凝固のコツと落とし穴
		山 本 修 一	千葉大学大学院医学研究科眼科学	教 授	ERGハフートレーニング
18	2009年 3月 14日	福 山 誠	ふくやま眼科	院 長	眼軸長測定と眼内レンズ度数決定
		徳 田 芳 浩	井上眼科病院	副 院長	白内障IOL手術の合併症対策
19	2010年 3月 6日	内 尾 英 一	福岡大学医学部眼科学教室	教 授	眼アレルギーの治療と管理 ～免疫抑制点眼薬導入後の新しいトレンドを中心に～
		後 藤 浩	東京医科大学眼科学教室	教 授	眼瞼腫瘍の診断と治療の実際
20	2011年 5月 21日	天 野 史 郎	東京大学大学院医学系研究科 外科学専攻感覚運動機能医学講座	教 授	角膜手術の新しいトレンド
		西 田 幸 二	大阪大学大学院医学系研究科 脳神経感覚器外科学(眼科学)	教 授	病態から考える角膜疾患の診療
21	2012年 3月 17日	清 水 公 也	北里大学医学部眼科学教室	教 授	"見る"ことmonovisionと多焦点レンズを考える
		神 谷 和 孝	北里大学医学部眼科学教室	准 教授	乱視矯正に関する最近の話題
22	12月 15日	中 馬 秀 樹	宮崎大学医学部附属病院	病院教授	外転神経麻痺のみかた
		佐 藤 美 保	浜松医科大学医学部眼科教室	病院教授	斜視はどこまでなおるのか
23	2013年 10月 19日	相 原 一	四谷しらと眼科	副 院長	新しい緑内障濾過手術の可能性
		桑 山 泰 明	福島アイクリニック	院 長	緑内障の生涯治療
24	2014年 11月 22日	石 田 晋	北海道大学大学院医学研究科眼科分野	教 授	黄斑浮腫に対するVEGF療法
		横 井 則 彦	京都府立医科大学大学院医学研究科 視覚機能再生外科学	准 教授	涙液破壊を診るドライアイ診療のグレードアップ
25	2015年 2月 21日	浅 利 誠 志	大阪大学大学院医学研究科	招聘教授	日米の誤ったMRSA治療法を一刀両断 ～眼科での治せる治療法とは?～
		大 橋 裕 一	愛媛大学医学部眼科	教 授	研究のマイブームを作ろう!
26	10月 17日	野 田 航 介	北海道大学大学院医学研究科眼科学分野	准 教授	糖尿病黄斑浮腫の病態と治療選択
		佐々木 洋	金沢医科大学眼科学講座	主任教授	最良のQOVを目指した白内障手術適応と眼内レンズの選択
27	2016年 2月 27日	園 田 康 平	九州大学大学院医学研究科眼科学	教 授	眼炎症疾患:これからのマネージメント
		山 田 昌 和	杏林大学アイセンター	教 授	コンタクトレンズとドライアイ
28	2017年 2月 25日	木 内 良 明	広島大学大学院視覚病態学	教 授	緑内障クリニカルエッセイ
		庄 司 信 行	北里大学医学部眼科	主任教授	緑内障手術のタイミング
29	2018年 3月 3日	浅 利 誠 志	大阪大学大学院医学系研究科	招聘教授	薬剤耐性 (AMR:antimicrobial resistance) について
		江 口 秀 一 郎	江口眼科病院	院 長	外眼疾患治療のエッセンス

## UAC霧島眼科研鑽会

※講演者の所属・役職は当時のものです。

回	開催日	講演者	所属	役職	演題名
1	2013年 5月 18日	神 谷 和 孝	北里大学眼科	准 教授	Hole ICLについて
		柴 琢 也	東京慈恵会医科大学眼科学教室	講 師	プレミアム眼内レンズの注意点
		三戸岡 克 哉	東京慈恵会医科大学附属第三病院	眼科診療部長	色の不思議"患者さんにはどう見えているか?"
2	6月 15日	湖 崎 淳	湖崎眼科	院 長	乱視の基礎
3	9月 21日	山 田 直 之	山口大学医学部眼科学教室	講 師	角膜ジストロフィ、その臨床所見と遺伝子所見の相関
		森 重 直 行	山口大学医学部眼科学教室	講 師	水疱性角膜炎の細胞生物学
4	12月 21日	平 岡 孝 浩	筑波大学医学医療系眼科	講 師	小児の近視進行抑制法アップデート ～オルソケラトロジーを中心として～
		岡 本 史 樹	筑波大学医学医療系眼科	講 師	網膜疾患の視機能 ～網膜剥離と黄斑前膜の交差と不等像視～
5	2014年 2月 14日	相 馬 剛 至	大阪大学大学院医学系研究科眼科	特任助教	生体適合性架橋剤を用いた角膜実質疾患治療の開発
		辻 川 元 一	大阪大学医学部眼科視覚再生医学寄附講座	教 授	AMDに対するワクチン療法の開発
6	8月 2日	鈴 木 崇	愛媛大学医学部眼科	講 師	角膜感染症の攻略法～細菌・真菌編～
		井 上 智 之	愛媛大学医学部眼科	講 師	角膜感染症の攻略法～ヘルペス・アカントアメーバ編～
7	2015年 5月 23日	川 路 隆 博	佐藤眼科	—	より簡便で安全な眼内レンズ強膜内固定術を目指して
		井 上 俊 洋	熊本大学眼科	講 師	緑内障薬物治療アップデート
8	2016年 7月 9日	結 城 賢 弥	慶應義塾大学医学部眼科学教室	専任講師	運転、交通事故と緑内障
		根 岸 一 乃	慶應義塾大学医学部眼科学教室	准 教授	白内障・屈折矯正手術と老視～最近の話題から
9	2017年 7月 29日	小 畑 亮	東京大学医学部眼科学教室	講 師	ROCK阻害薬とこれからの緑内障治療
		本 庄 恵	東京大学医学部眼科学教室	講 師	抗VEGF薬は大事でもそれだけじゃない、黄斑疾患の診断と治療
		宮 井 尊 史	東京大学医学部眼科学教室	講 師	Fuchs角膜内皮変性症について
10	12月 16日	須 藤 史 子	東京女子医科大学東医療センター	教 授	糖尿病合併白内障手術のコツ
		石 井 清	さいたま日赤病院	部 長	点眼薬の早期眼内移行経路
		大 内 雅 之	大内眼科	院 長	理論と手技で乗り切る、破囊・合併症処理
		鈴 木 久 晴	日本医科大学武蔵小杉病院	准 教授	実験的評価を基礎とした低侵襲白内障手術
		森 洋 齊	宮田眼科病院	診療部長	IOL度数計算式のアップデート
11	2019年 11月 9日	永 田 万 由 美	獨協医科大学病院	講 師	最近の眼内レンズと術後合併症
		小早川 信一郎	日本医科大学武蔵小杉病院	病院教授部長	親水性眼内レンズの混濁・質者は歴史に学ぶ
		松 島 博 之	獨協医科大学病院	准 教授	疎水性アクリル眼内レンズ混濁の評価



累計／国内学会発表849件、海外学会発表60件（2019年12月時点）

月	回	学会名	発表形式	演題名
1	42	日本眼科手術学会	シンポジウム	教育セミナー 角結膜手術の基本手法 翼状片手術の基本と応用
			シンポジウム	総会長企画 IOL度数計算における全房深度予測の重要性 異常眼軸や角膜形状異常の課題と対策
			シンポジウム	総会長企画 翼状片手術を極める 翼状片の重症度と術後経過 -光学的7P ロ-子と分子生物学的検討-
2	43	角膜カンファランス	シンポジウム	ラフォレット 元気になる視力-QOV-QOL向上のために- 元気になる視力-白内障編- 快適な術後視力を目指して
			一般講演	Corneal Flattening with Descemet membrane foldsの7例
			シンポジウム	シンポジウム 翼状片手術のこだわり God is the details.-神は細部に宿る-
			一般講演	壊死性強膜炎に合併した両眼性のPaecilomyces真菌性角膜炎の1例
			一般講演	アウセントウワタの樹液による角膜上皮障害を生じた5例
			一般講演	角膜穿孔の閉鎖にシアノアクリレートが有効であった2例
			一般講演	家庭性LCAT欠損症とFish eye diseaseにおける視機能の検討
			一般講演	機械学習を用いた円錐角膜の診断能の検討(第2報:スクリーニングとしての有効性)
			シンポジウム	モーニングセミナー ヨード製剤を学ぼう 耐性菌を考慮した周術期減菌療法
			一般講演	メタボリック症候群が白内障手術周術期の血圧に与える影響
4	123	日本眼科学会	一般講演	プロスタグランジン点眼の角膜biomechanicsおよび角膜形状への影響の検討
			シンポジウム	ランチョンセミナー コンタクトレンズ臨床の今、そして未来へ 老視世代のQOL向上を目指して
			シンポジウム	ランチョンセミナー 周術期対策における抗菌点眼薬使用のシレンマ
			シンポジウム	モーニングセミナー トーリック眼内レンズによる乱視矯正を考える
			シンポジウム	ランチョンセミナー 術後視力の実力!
			一般講演	日本人wAMD又はDME患者を対象としたFaricimabの国内第1相試験
			一般講演	深層学習を用いた円錐角膜の診断能の検討(第3報:プラチド式角膜形状解析での検討)
			一般講演	水疱性角膜炎に対する角膜クロスリンク術後長期成績
			一般講演	プロスタグランジン関連点眼薬使用例での眼表面常在細菌叢の薬剤耐性化メカニズム
			シンポジウム	シンポジウム 前眼部手術の新たな手術技術の可能性
5	89	九州眼科学会	シンポジウム	角膜シンポジウム 真菌性角膜炎・アcantアメーバ角膜炎に対する内科的治療
			一般講演	Starting point of visual rehabilitation for patients with retinitis pigmentosa based on visual function and vision-related quality of life.
			一般講演	Contralateral Comparison of Contrast Sensitivity and Higher-Order Aberrations within Pupils after Blue and Violet Light Blocking Intraocular Lens Implantations using a Ray-Tracing Aberrometer
6	34	JSCRS学術総会	一般講演	Comparison of 4 intraocular lens power calculations for Japanese eyes with short and long axial length.
			シンポジウム	【ORTによるORTのためのIC】白内障・屈折矯正手術前後における検査の流れ
			シンポジウム	宮田眼科病院での眼内レンズの対応
			シンポジウム	周術期の抗菌点眼薬使用と耐性化
			シンポジウム	眼内レンズ度数計算のアップデート 角膜クロスリンクの応用
			シンポジウム	トーリック眼内レンズの導入に際して…
			一般講演	+1.5D加入の分節型多焦点眼内レンズ挿入眼における全距離視力
			一般講演	抽出アクリルIOLで測定したレンズ表面の硬化と眼内年数との関係
			一般講演	白内障術前生体計測データの比較研究(第1報:国内2施設間における比較)
			一般講演	術中ガイドシステムを用いたトーリック眼内レンズ軸合わせの評価
7	58	日本白内障学会総会 フォーサム	シンポジウム	世界の最新トレンドを知ろう!“What's New in 2019”
			シンポジウム	人口虹彩
			シンポジウム	眼科の術後抗生薬の適正使用
			シンポジウム	眼科抗生薬適正使用アクションプラン:白内障術後
			一般講演	焦点深度拡張型眼内レンズ挿入による中心10°視野への影響
			シンポジウム	術前:混濁除去とIOL度数計算
			一般講演	後面の細胞接着性を増強したシャープエッジ眼内レンズの後発白内障抑制効果の検討
			シンポジウム	周術期の抗菌点眼薬使用と結膜常在菌の耐性化
			一般講演	IGT機器の過剰使用後に発症した急性内斜視の1例
			一般講演	眼内レンズ挿入後における屈折刺激に対する他覚屈折値の微動
9	36	九州視機能研究会	一般講演	Comparison of 4 intraocular lens power calculations for Japanese eyes with short and long axial length
			一般講演	Comparison of 4 intraocular lens power calculations for Japanese eyes with short and long axial length
10	73	日本臨床眼科学会	シンポジウム	前眼部疾患トリアージ~治療のタイミングを逃さないために~
			一般講演	焦点深度拡張型眼内レンズ挿入の中心10°静的視野への影響:回折型焦点との比較
一般講演	後天性共同性内斜視(acquired acute comittant esotropia:AAE)の融像域			
一般講演	低加入度数分節眼内レンズ挿入眼における術後屈折と視力の関係			
一般講演	うんちくビクレトミー~教科書には載っていない達人のこだわり その3~			
一般講演	プロスタグランジン点眼の角膜biomechanicsおよび角膜形状への影響の検討			
一般講演	深層学習を用いた円錐角膜の診断能の検討(第4報:進行予測)			
一般講演	網膜色素変性患者におけるロービジョンケア開始時期の検討			
シンポジウム	角膜クロスリンクの応用			
12	57	日本神経眼科学会総会	一般講演	20歳以降に発症し40歳代で確定診断されたWolfram症候群の1例
12	58	日本網膜硝子体学会総会	一般講演	増殖性硝子体網膜症に対する計画的網膜全周切開術の有効性の検討

診療について

診療時間

受付ならびに検査は、毎日午前8時開始です。

※ただし、都域の急患につきましてはこの限りではございません。

月～金曜日 8:30～17:30

土曜日 8:30～13:00

休診日 日曜日／祝日／お盆／年末年始

診療予約(受付時間)

診療時間帯を4つの時間帯に分けてご予約を承っております。  
各診療時間帯別の受付時間は次の通りです。

午前 ① 8:00～10:00

午前 ② 10:00～12:00

午後 ① 13:00～14:30

午後 ② 14:30～16:30

電話予約センター

予約専用  
電話番号

宮田眼科病院 0986-46-1200

鹿児島宮田眼科 099-286-1233

予約受付  
時間

月～金曜日 8:30～17:30

土曜日 8:30～13:00

※上記の時間を過ぎますと予約をお受けすることができません。

※日曜日・祝日、お盆・年末年始休診日はお受けすることができませんのでご了承ください。

※手術、病棟診療、出張、休暇等で担当医不在のこともございます。お手数ですが、各担当医勤務を随時ご確認ください。

医療法人明和会

## 宮田眼科病院

### 基本DATA

〒885-0051 宮崎県都城市蔵原町6-3

URL <http://www.miyata-med.ne.jp>

TEL 0986-22-1441  
(予約専用 0986-46-1200)

FAX 0986-24-2174

### ACCESS

#### 【JR】

JR日豊本線：西都城駅で下車  
●徒歩：約10～15分程度  
●タクシー：約2～3分

JR日豊本線：都城駅で下車  
●タクシー：約5分

都城駅には駅ホームに  
エレベーターが設置されています。

#### 【自動車(高速道)】

宮崎市内ー都城インター経由：約50分  
鹿児島市内ー都城インター経由：約80分  
鹿児島市内ー末吉財部インター経由：約60分

#### 【最寄りの空港】

宮崎空港ー高速バス：約55分  
⇒中央通3丁目バス停で下車：徒歩約2～3分  
鹿児島空港ー高速バス(乗継有)とタクシー：約80分

### 院内GUIDE

駐車場 喫茶室 入院施設 子供待合室 授乳室 ランドリー

6F ランドリールーム  
5F 入院患者様専用食堂 面会コーナー 講義室  
4F 病室(個室・大部屋)  
3F 病室(特別室・個室・大部屋) ※ベッド数 計71床  
2F 手術室 日帰り手術患者様専用安静室 研究室 事務室  
1F 受付・会計 検査室 診察室 レーザー室 臨床検査室  
予約コーナー 薬剤室 Cafe212

### Cafe212

※都城のみ

患者様のみならず、付き添われて来院された方々にも、待ち時間を快適にお過ごしいただけるよう、院内にカフェを設置しています。ゆったりとした雰囲気、軽いうちからデザートまで、メニューは全て手作りです。



■が当院駐車場です

医療法人明和会

## 鹿児島宮田眼科

### 基本DATA

〒890-0046 鹿児島県鹿児島市西田1-5-1

鹿児島高見橋ビル1階・2階

※ビルテナント型外来診療施設

URL <http://www.miyata-med.ne.jp>

TEL 099-286-1213  
(予約専用 099-286-1233)

FAX 099-286-1190

### ACCESS

#### 【JR】

JR各線：鹿児島中央駅で下車  
●徒歩：約5分程度

#### 【市電】

市電：高見橋電停で下車  
●徒歩：約1分程度

#### 【自動車(高速道)】

鹿児島インター経由：約10分  
鹿児島北インター経由：約15分

#### 【最寄りの空港】

鹿児島空港ー高速バス：約50分  
⇒鹿児島中央駅バス停で下車：徒歩約5分

### 院内GUIDE

子供待合室 授乳室

2F 会計 検査室 診察室  
レーザー室 予約コーナー  
1F 受付 診察室 手術室 待合室  
日帰り手術患者様専用安静室

